

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 22 日

事業所名 高槻市立第2めばえ教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		広さは十分だが、個別対応が必要な場合のスペースを常時確保することが難しい。お子さまや保護者の方の動きを見ながら部屋の利用の仕方等を工夫し対応に努めていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ご利用児それぞれのマークを決め、準備や片付けがしやすいような工夫をしている。また、その日の課題を写真や図を用いて分かりやすく表示している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		時間を決めて次亜塩素酸(ドアノブ、机など)とアルコール(ままごとの玩具など)消毒している。常に換気し、加湿機能付空気清浄器を使用している。活動内容や天候に合わせて適温となるよう温度調整を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月々の保育士会議、職員会議にて療育の振り返りを行っている。目標設定や振り返りの仕方などについては検討が必要である。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		事業所評価の実施とは別に、(めばえ教室)独自のアンケートを毎年年度末に実施。保護者からいただいたご意見を参考に業務改善につなげている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		教室内に掲示している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	今後、検討を行う
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的な全職種によるケースカンファレンス、各職種による研修を実施し、お子様の様子や関わり方について話し合う場を設けている。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者には個別に聴き取りを行いニーズや課題について共通理解を持てるようにしている。多職種の職員がお子さまの姿を客観的に捉えた上で支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		月に1回発達検査を実施し、保護者に結果と検査からみえる課題について説明を行っている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員間で個別支援計画の把握及び計画に沿った支援を共有していけるよう今後も取り組んでいく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		保育士を中心に各職種が意見を出し合い、各グループのお子様の活動状況に合わせて作成している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		様々な微細運動、粗大運動を取り入れ、あらゆる活動を経験してもらえるよう工夫している。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		お子さまの状況を職員間で共有し、支援について共通理解を持って関わることができるよう作成している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		開室前の朝の打ち合わせにて、リーダーを中心に全職員で、本日の活動内容、役割分担、配慮が必要な点などを確認している
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員間でその日の療育を振り返るカンファレンスの場を設け、お子さまの様子や変化、保護者からの聴き取りを共有している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		お子さまの様子(全体の様子、課題への参加状況、職員や他児との関わりなど)や保護者からの聞き取りを毎回記録している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当の支援職員が参画している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		保護者の要望や必要に応じて関係機関等と連携し、支援を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		現在は支援を行っていないが、必要があれば連携していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		現在は支援を行っていないが、必要があれば体制を整えていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の要望に応じ、文書・面談・電話にて情報共有と相互理解を図っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		対象児童が2歳児の幼稚園などとは行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	今後検討していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
携	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		通室中にお子さまの活動の様子を見ながら、家庭での様子を伺い、発達の状況や課題についてお話し確認を行っている。期に一度の発達検査を通して、発達の状況や課題について共通理解を持っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		プログラム化はしていないが療育中に保護者グループ懇談を行い、保護者のエンパワメントを図っている。グループにおいては、テーマを設定し、言語聴覚士など専門職からの講義を行っている。(今年度の育児講座はYouTube配信で実施した)
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約会やオリエンテーションで説明し、随時質問に答えている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からの要望があれば通室日以外も電話相談や個別面談に応じ、助言や支援を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		会は開催していないが、保護者グループ内にて保護者同士の情報共有や交流の場を作っている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申入れについては速やかに対応している。療育中に対応が困難な場合は、電話する・個別で時間を設定するなどに対応している。また、長期休室期間については、対応可能な日時をお知らせしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		めばえだよりを作成し、概ね月1回発行し、情報発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の取扱いについては十分注意するよう職員会議などで確認し、意識するよう声かけし合っている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々のお子さまの様子に合わせてコミュニケーションの方法を工夫している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	地域に開かれた事業運営を今後検討していく。
	非常時等の対	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		地震、火災時の避難訓練を定期的実施している。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		入室前に保護者からの聴き取りと並行して、面接票への記載をお願いしている。入室後に再度看護師による聴き取りを行い状況を確認している。
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事の提供はしていないが、小麦粉粘土など療育材料に配慮し、米粉に変えるなど、アレルギー対応している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		毎日の振り返りで共有し、改善に向けて検討している。事例の状況や改善内容は事業所内で共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		毎年、年度初めに虐待防止についての研修を行っている
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		拘束を行うことはないが、研修などを行い、職員の理解を深めるようにしている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。